

鬼才・異才・奇才と形容されるカリスマ降臨!

# ヴァレリー・アフアナシエフ ピアノ・リサイタル

2021年

11月20日(土)

茅ヶ崎市民文化会館大ホール

茅ヶ崎市茅ヶ崎1-11-1

(JR茅ヶ崎駅北口徒歩8分)

開演時間/14:00(開場時間13:20)

全席指定/S席6,500円(税込) A席5,000円(税込)

学生席2,500円(税込)

Valery  
Afanassiev

## Program

J.S.バッハ:平均律クラヴィア曲集 第1巻より  
8つの前奏曲とフーガ

- 第1番 ハ 長調 BWV846
- 第2番 ハ 短調 BWV847
- 第7番 変ホ長調 BWV852
- 第8番 変ホ短調 BWV853
- 第21番 変ロ長調 BWV866
- 第22番 変ロ短調 BWV867
- 第23番 ロ 長調 BWV868
- 第24番 ロ 短調 BWV869

ブラームス:4つのパレード Op.10  
2つのラプソディ Op.79

※演奏者の都合により曲目等変更になる場合がございます。予めご了承ください。

10月16日(水)チケット発売開始 ※茅ヶ崎市民文化会館での電話予約は10月7日(水)9:00より受け付けます。

【予約・お問い合わせ】  
茅ヶ崎市民文化会館  
0467-85-1123

茅ヶ崎音楽友協会  
0467-82-3744

【プレイガイド】

茅ヶ崎市民文化会館  
0467-85-1123

川上書店茅ヶ崎ラスカ店  
0467-87-3826

長谷川楽器店本店  
0467-85-1725

イープラス  
<http://eplus.jp>  
(070)2202888

本公演は新型コロナウイルス感染症予防のため、出席の制限を付けて販売いたします。ご来場の際は、マスクの着用・手洗いの徹底・体温のチェックをお願いいたします。

【託児サービス】

対象:0歳児~小学校3年生  
お子様1人につき1,000円(0歳~1歳 2,000円)  
時間:公演30分前~公演終了まで  
お申込み:イペック託児マザーズ  
☎0120-788-222(月~金10:00~12:00 13:00~17:00)  
公演1週間前まで受付。定員になり次第締め切ります。  
※公演当日の申込みはできませんのでご了承ください。

※学生席は茅ヶ崎市民文化会館と茅ヶ崎音楽友協会の取り扱いとなります。※未成年の入場はご遠慮ください。

※終演後のご会食、及びロビー、楽屋口等での自演者の待ちはお断りいたします。また、出演者へのプレゼントはお断りすることができませんのでご了承ください。

## ヴァレリー・アフアナシエフ(ピアノ)

Valery Afanassiev piano



1947年モスクワ生まれ。モスクワ音楽院にてヤコフ・ザークとエミール・ギレリスに師事。2つの世界屈指のコンクール、ライプツィヒのバッハ国際コンクール(1968年)およびブリュッセルのエリーザベート王妃国際音楽コンクール(1972年)で優勝を飾った。

1974年に政治亡命者としてベルギーに保護を求め、現在、同国で暮らしている。西側への亡命後、ヨーロッパはもとより、日本、中国、オーストラリア、アメリカ合衆国などで演奏活動を続けてきた。

日本においては1983年にヴァイオリニストのギドン・クレーメルの共演者として初来日。1987年の第3回「東京の夏」音楽祭のソロ・リサイタルでは熱狂的な成功を収め、以来日本へはたびたび来日している。

アフアナシエフは、室内楽の演奏にも情熱を注ぐほか、数年にわたり世界各地の様々なオーケストラを指揮してきた。彼は、自身が尊敬する指揮者たち(フルトヴェングラー、トスカニーニ、メンゲルベルク、クナッパertz、ブルーノ・ワルター、クレンペラー)が織りなしたサウンドとポリフォニーの一端を表現できるよう努めている。

アフアナシエフはこれまで、みずから執筆した解説を添えたアルバムを約70作リリースしている。彼のねらいは、作曲家の意向をめぐる自身の洞察の全体像を聴き手に示すことにある。この試みは、アフアナシエフが詩的な錬金術を展開する実験工房への“ガイド付きツアー”にたとえられる。そこでは、詩、哲学、絵画、カバラ、さらにワインまでもが、記譜法と同等の規準として扱われうるのである。アフアナシエフは現在、ソニー・クラシカル・レーベルと録音契約を結んでいる。彼にとって初録音となる作品が収められた6枚組の最新ボックス・セット「テストメント(遺言)/私の愛する音楽」は、2019年度の音楽之友社「レコード・アカデミー賞」(特別部門)に輝いた。

2008年3月には、アフアナシエフのドキュメンタリー番組「漂泊のピアニスト アフアナシエフものあはれを弾く」がNHKハイビジョン特集で放送された。また、大好評により2012年、2013年、2019年にもNHKBSプレミアムにより再放送された。

作家でもあるアフアナシエフは、37作の小説(うち23作は英語、14作はフランス語)を手がけている。このほか、英語による詩集を16冊、ロシア語による詩集を9冊、長編集を1冊、短編集を1冊、ダンテの『神曲』の評釈をまとめた大著を1冊、随筆集を3冊、執筆している。さらに、『展覧会の絵』と『クライスレリアーナ』から靈感を得た2つの劇作品を書き上げ、みずからピアニストおよび俳優として4か国語で上演した。またアフアナシエフは、先ごろカフカの『流刑地にて』にもとづく戯曲を完成させたばかりで、同作品内ではモートン・フェルドマンの『マリの宮殿』を演奏している。

